

青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科 デイトムコース

① 20 代 男性 大学生（2024 年）

1 出願書類・研究計画書

(1) デイトムコース、イブニングコース 共通課題

ABS への入学志望理由について記述し、特に MBA の取得を自分のキャリアにどのように活かそうと考えているか述べなさい。（A4 用紙 2 枚以内）

答案再現

私はすべての人が平等で、尊厳を持って生活できる社会に貢献することが目標です。目指すようになった 2 つのきっかけがあります。一つ目は私が通っていた民族学校が、財政難を抱えていたことです。2 つ目は社会起業家である五常・アンド・カンパニー株式会社代表執行役の慎泰俊さんの姿を見たことです。このような環境、経験から私は財務支援事業を展開し、財務状況の改善による企業の経営課題を解決していくことをキャリアゴールとしています。この事業を通じて自社のステークホルダーを幸せにすることで社会に貢献します。そのためには汎用的な経営に関する知識が必要であると考え、貴大学院に入学することを志望しています。

私がキャリアゴールを考えるようになった背景には在日コリアンというアイデンティティと民族学校での経験が深くかかわっています。私が通っていた学校は学校を運営するための資金が常に不足しており財政難に陥っていました。一般的な学校にある設備や施設が整っておらず以前までは教室に冷房、暖房はありませんでした。その他学校設備が老朽化して使用できない状態が続いており、学校で働く教職員への給料の支払いも厳しい状況でした。元々財政が潤っていたわけではありませんが、補助金のカットと高校無償化制度の除外は、それをさらに深刻化させており、資金難が教育を受ける機会や環境の格差につながっていると体感しました。私は署名活動等の活動を行ってききましたが、権利活動では何も変えられることができませんでした。そのような中で、大学の専門科目の授業でソーシャルビジネスについて学び、社会

起業家である五常・アンド・カンパニー株式会社代表執行役の慎泰俊さんがマイクロファイナンスを中心とした金融サービス事業によって貧困問題の解決、機会の平等を実現していることを知りました。このことがきっかけとなり、自身の力、事業によって変革をもたらすことができると考えるようになり、この気付きは自身のキャリアゴールに大きな影響を与えています。そこで私は企業や教育機関に対する財務面での支援、改善をしていきたいと考えようになりました。日本社会そして私の通っていた学校に貢献できると強く考え自身で起業することを目指しています。

そのために私は、将来の起業に向けて大学の学部では2つのことに注力しました。1つ目は経済学部に進学し、お金について学んだことです。企業が活動するうえで欠かせない流通、会計、金融についての基礎内容を総合的に学びました。特に会計に関する科目を多く履修し、財務諸表を読む基礎的な力を養いました。この学習から会計情報が企業内部、ステークホルダーの意思決定に大きな影響を与えることを知ることができました。2つ目は韓国に交換留学に行き、経済学について学んだことです。流通論を学ぶ中で国際貿易について興味を持ち、貿易依存度の高い韓国で国際貿易を学びました。韓国留学中に貿易理論を学び各国そして企業が地政学的な影響をどのように受けるのか、そして競争優位のためどのように戦略をとるべきかが重要であるということを知りました。また事業を海外に拡大する場合には経営学に加えて各国ごとの文化や風習、地理等の企業の外部環境を考慮する必要があり、異文化への理解が大切であることも学びました。そして、韓国での留学生活においてデジタル化が人々の生活を大きく変容することを感じました。韓国はキャッシュレス等デジタル化が進んでおり、日常生活でそれを体験し生活水準の向上につながると実感しました。日本でも今後デジタル化は今以上に普及されると考えられ、それらテクノロジー活用することができれば革新的な事業展開を行うことができると考えるようになりました。

学部時代には前述した通り2つのことに注力し、流通、会計、金融という企業活動のおいての総合的な学びの基礎を中心として学びました。しかし、私にはまだ将来起業するための力や、学びが備わっていません。私が社会で活躍し、起業するためには実践的な力そして経営のゼネラリストになる必要があります。そのために、私は貴大学院デイトタイムコースに進学することを志願しています。志願する理由は主に3点あります。第一に、デイトタイムコースでは1日中経営学について学ぶことができるからです。経営に関する総合的な知識を身につけることはもちろんですが、特にリーダーシップやマネ

ジメントスキルの習得にも力を入れたいと考えています。組織を牽引していく力、ビジネスにおけるコミュニケーション能力を伸ばしていきたいです。第二に、グローバルスタンダードに基づいた貴大学院は修士論文が課されておらず、幅広い科目を2年間存分に学ぶことで実践的なスキルを身につけることが可能であるからです。その中でも特に、専門科目として2年次に開講されている青山アクションラーニングを通じて、ファイナンス・アカウンティングについての理解と実践的な力を身につけたいと考えています。青山アクションラーニングを通じて企業の財務面での課題解決に優れた人材になりたいと考えています。第三に、社会人から留学生そして新卒者と、多様なバックグラウンドを持つ学生と共に学ぶことができ、基礎科目では異なる価値観や文化を学ぶことが可能であるからです。グローバル人材、ビジネスを展開するうえで必要な国際的視野を養うことができます。多文化共生やダイバーシティを社会では謳われていますが、その言葉の裏に隠れた差別や排他主義があると思います。そのような点からも、グローバルな視野、倫理観を貴大学院での授業を通じて学びたいと考えています。上記の理由から貴大学院に入学することを強く志望しています。

私は貴大学院で経営者として必要な経営に関わる汎用的な知識、キャリアゴールの実現のためファイナンス・アカウンティングに関する専門的な能力を身につけます。私は企業や教育機関に対する財務支援事業を展開することを計画していますが、財務面での支援を行うためには金融への理解が必要であると考えており、修了後まずは金融機関に就職することを考えています。貴大学院での学びを活かし、実務経験を積むことで多くの知識を吸収していきます。金融機関での経験を基に最終的には起業をし、財務支援事業によってすべての人が平等で、尊厳を持って生活できる社会に貢献していきたいです。

(2) デイタイムコース課題

過去に直面した最大な試練は何であったか、それをどのように克服してきたか、または現在ならそれをどのように解決しようとするか述べなさい。(A4用紙2枚以内)

答案再現

私が直面した最も大きな試練は、大学1年から現在までアルバイトとして働いてきた焼き肉屋において、厨房での作業効率の悪化により、仕事の進行が遅れ、アルバイトの退勤時間も遅くなるという事態に直面したことです。

私は、その試練を乗り越えるために、業務プロセスを改善することで全体の仕事の負担を分散し、結果この試練を一定レベル、乗り越えることができました。しかし私自身のアルバイトのマネジメント力の不足という課題が残りました。現在であればアルバイトスタッフに対するマネジメント不足を三つの解決策で対処することを通じて、試練を乗り越えます。一つ目は、マネジメントとコミュニケーションの質を上げること、二つ目は業務標準化のマニュアルを作成すること、三つ目は仕事に対するモチベーションを向上させることです。以下、具体的に述べます。

料理の提供以外の作業を後回しにしてしまったことによる作業効率の悪化は退勤時間の遅れを生み出しました。それらの問題に対し私は三つのアプローチを試行しました。第一に、誰がどの業務を行うのかという仕事の割り振りを明確にし、一緒に働くメンバーと協力して、注文が少なく空いた時間に、後回しにしていた業務を行いました。厨房の業務は料理を提供するだけではありません。具体的には調理をする際に必要な食材をカットし、ストックしておくこと、翌日以降のために仕込み、使用済みの食器や調理器具の洗浄、そして掃除等の業務があります。料理を提供することが最優先事項ではありますが、これらの業務を同時並行できることが理想的であります。しかし、当時の状況では共に働くアルバイトスタッフが同時並行で業務を行うことが難しい状況であったため一つの作業ばかりしてしまうこと、手の空いた時間に雑談をしてしまうことで、何もしない時間が発生してしまいました。そこで私はアルバイトスタッフに指示を出し役割を充て、皆で協力しました。結果後回しにしていた業務を空白の時間に行うことで解決しました。

第二に、後輩アルバイトへの指導方法を変えました。仕事の進行、退勤時間の遅れをとった原因は業務の非効率さだけでなく、私を含むアルバイト各個人の能力の低さも原因でもあります。また、非効率さも業務遂行能力の低さが原因の一つであると考えます。後輩アルバイトはまだ経験が浅く、自主的に動くことが難しい状況でした。そのため、後輩に業務を段階的に教え、習得してもらい少しずつ任せる業務を増やしていくことにしました。以前までは計画性なしに指導を手当たり次第に進めており、後輩はあやふやで断片的な記憶で業務を覚えていく状況でした。結果、仕事の進め方や優先順位を理解することができない状況になりました。そこで私は業務の系統別に教えることにしました。例を挙げて、漬物（キムチ）系や刺し系（ユッケ、センマイ）等という風に大まかに分類しました。一つの系統を習得したことを確認し、次の系統を習得してもらいました。このように業務を段階的に教え、

少しずつ任せる作業を増やしていきました。また、わからないことがあれば必ず聞くように伝えました。これにより後輩アルバイトは疑問点を放置するのではなく解決できるようになりました。これによって、ただ指示を待つだけでなく自ら判断して行動できるようになり、作業効率が上がりました。

第三に、土日に働くアルバイトの人手不足への対応をしました。具体的に、週末の時給を 100 円上げることで働くモチベーションを上げました。作業の非効率さは先述した二つの原因だけでなく、人手が足りないことも大きな原因の一つであります。私の働く店舗では特に週末に働くアルバイトが少ない状況でした。時給が変わらないのであれば、週末に比べ負担の少ない平日に働くのが普通であると考えます。そのため、この問題を解決するために私は時給を引き上げることを提案しました。時給を上げることによって週末に働くモチベーションを上げることができると考えたからです。結果、提案が採用され土日に働くアルバイトが増え、以前よりも負担が軽減されました。実際にアルバイト仲間は「時給が上がったから頑張ることができる」とモチベーションが上がりました。

このように 3 つのアプローチを試行して試練を乗り越えました。しかし依然としていくつかの課題も残りました。私は当初明るい雰囲気職場にしていくことを目指していました。仕事でも雑談ができる楽しい環境を作れば、アルバイトのモチベーションが上がり、仕事がうまく進むと考えていました。しかし、それは逆効果となり、業務中のオンとオフの切り替えが曖昧になってしまいました。結果、仕事に雑談が多くなり、緊張感のない状態が続きました。業務の進行速度が遅れてしまい、集中すべき場面でも締まりのない環境になってしまいました。業務の非効率さ、自身の力不足に気づいた時にはその文化が根付いてしまい、注意や指導がしばらく雰囲気自身で作ってしまいました。具体的に、後輩に対する指摘や、必要なフィードバックができませんでした。指導力の欠如だけでなく後輩アルバイトの成長、業務への遅れにもつながりました。これらの問題は私の指導力やリーダーシップが不足していることによって発生した課題であり残った課題です。

現在の私であれば 3 つの解決策で取り組みます。第一に、後輩を育成するためのマネジメント力とバイトとのコミュニケーションの質をあげ、適切な指導、指示を出すことで、後輩の成長と業務の効率化につなげたいと考えています。後輩のアルバイトスタッフに指示を出すだけでなく、個人ごとの具体的な目標、指標を設定することで自身の能力の把握と目標までの具体的な計画、遂行そして改善につなげることが可能になります。第二にアルバイト

のマニュアルを作成することです。退勤というゴールまでの手順を逆算し、そのために細かく分け管理します。これまでは後輩アルバイトが仕事の流れ、優先順位を把握しておらず作業にばらつきがありました。私自身も忙しい時間帯になると、何を優先すべきかわからなくなる時があります。具体的に時間ごと（もしくは忙しさの度合い別）に取り組む業務を決め、優先すべきこと、意識すべきことをマニュアル化します。また、作業別に分類をし、作業手順を明確に記載することで業務の標準化へつなげることができ、アルバイト全員が何をどのタイミングですべきかを迷わず判断することが可能になります。第三に能力給を提案します。単に時給を上げるだけでなく能力によって時給を決めるようにします。試練の中で時給が上がると同時にモチベーションも上がりましたが、現在自分ができる仕事だけを一生懸命頑張るようになり、スキルアップにはあまりつながらなかったと私は考えます。具体的な目標（厨房では料理の習得）を設定し達成することで給与を上げ、能力そして成長を最大化する環境にします。